



# カワガニ

復刊 86号

# 妙の光

三重塔を囲む池に川蟹が住み着いている。昨年秋、いつものように鯉の餌やりをしていて、その餌を食べに岩の隙間から出て来た姿を見つけた。以前からすぐ隣を流れる沢で時折見かけることはあったのだが。

檀徒の高橋さんは家の近くに川があり、川蟹漁を趣味にしている。その高橋さんから、網でできた蟹カゴを借りてきて仕掛けたら、一晩で20匹近くが捕れた。すぐに放したが、「晩秋と春の花見時が一番旨い。中華料理で有名な『上海蟹』の仲間でも負けないよ」と高橋さん。

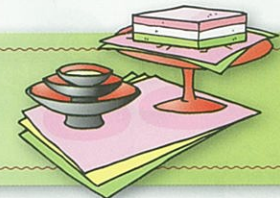
正式にはモクスガニといって、日本各地の海に通じる川にはたいがい棲息している。海で産卵して孵化してからかなり上流までのぼるという。その割になじみが薄いのは、川がコンクリートで固められて棲み処にする自然の穴が減ったのと、地元の人々が食べてしまい市場に出ないためだそう。

藻屑蟹怒れる泡を吹きかぶり

村上杏史



## 行事案内



### 『春のお彼岸法要』と『開創700年記念碑除幕式』

3月21日(金)(祭日)  
 午前10時 記念碑除幕式  
 10時30分 彼岸会墓地合同法要  
 11時 彼岸会中日本堂法要  
 12時 おとぎ  
 午後1時30分 清興…大広間  
 ※詳細は同封のお手紙をご覧ください。

### 『ご判様』

4月29日(火)(祭日) 午前8時半受付開始  
 ※詳細は別紙「ご妙判」お大会のご案内をご覧ください。



### 『参道植栽ボランティア作業』

5月3日(土)、4日(日)、5日(月)(連休中)  
 ※詳細は別紙案内チラシをご覧ください。

### 『春の一日研修』(初級コースのみ)

5月18日(日) 午前9時～午後3時半  
 ◆会費：4千円(昼食付) ◆受付締切：5月13日  
 ※詳細は別紙案内チラシをご覧ください。



### 『お寺でヨガ』

初心者向けのヨガ教室。予約制。  
 4月12日(土)・17日(木)・5月10日(土)・15日(木)  
 6月14日(土)・19日(木)  
 ◆(木)14:00～15:15 ◆(土)19:00～20:15  
 ◆定員：各15名 ◆費用：一回700円  
 ◆講師：ノリコさん  
 ※詳細は別紙案内チラシをご覧ください。



### 『韓国家庭料理教室』

6月4日(水) ◆講師：キム・ミョンイさん  
 ※参加費は材料費程度。その他詳細は検討中ですので、お問い合わせください。

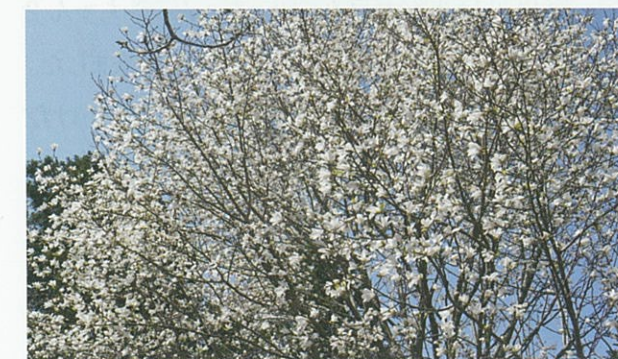


### 『月例信行会』

◆毎月第1日曜日：午前7時半～9時  
 ◆会費：千円(各自賽銭箱にお願いします)  
 予約不要で当日直接お寺へお越し下さい。  
 お参り、法話、作務、朝粥の朝食、コーヒータイム等があり、交流の輪も広がります。

### 『月例ボランティア』

毎月15日 午前9時～11時半 午後1時～3時  
 境内の清掃等をお願いしています。都合の良い時間にお越し下さい。昼食はご持参願います。



### あとがき

開創700年身延山法要から、早いもので1年が過ぎようとしております。妙光寺は、新しい100年に向けて動き出しています。夏の「送り盆～フェスティバル安穩～」も、今年は25回目を迎えます。その他の行事も、多彩に計画されています。今号の『妙の光』では、そんな胎動を少しづつお知らせしました。ぜひ、お寺に足をお運びください。(新倉理恵子)

# 安 穩

## 住職交代!?

小川英爾

### 後継住職候補の近況

長女の良恵が妙光寺の後を継ぐ方針とお知らせして、1年が過ぎました。この間平日は立正大学仏教学部で講義を受け、週末や休日は鎌倉市円久寺・松脇ご住職の元でお経の読み方を中心に指導いただいています。

昨夏のお盆には、7月は関東、8月は地元新潟の檀徒さんのお宅に棚経に伺わせていただきました。世話の方々には道案内を、皆様からは暖かい励ましのお言葉をいただき、感謝に堪えません。

今後は大学の講義がもう1年、併せて円久寺様での修行も続きます。この3月末には千葉県清澄寺での「僧道林」という1週間の研修、秋11月にはお経の試験もあります。4月からは大学の講義科目数も少し減るので、他での勉強の機会も増やします。



来春に大学が終わり、6月に身延山で35日間の「信行道場」という修行を経て、僧侶の資格が与えられる予定です。

### 自身を振り返れば

私自身は21歳、立正大学3年時の2月に先代住職の父が66歳で亡くなり、急きよ跡を継ぐ決心をしました。そこで在学していた文学部のほかに、4月から仏教学部の講義10科目を加え、ほぼ毎日朝から晩まで大学で講義を受けました。当時は規則も緩やかで、今娘が2年かかるところを、無理して1年で終わらせることができました。

また当時はお経の試験もなく、4年生の夏休み中に身延山で35日間の修行、翌春大学卒業と同時に資格を得て、そのまま22歳で住職に就きました。お経は小学生のころ父から習っただけで、お盆と法事の手伝いはしたものの葬式は未経験の全く心もとなない住職でした。今の私があるのは、檀信徒の皆様の支えがあったからこそです。

### 交代時期は

そこで娘が来年7月に資格をいただいたら、秋には住職を交代しようと考えてきました。もちろん私が何処かに行っても、いなくなるわけではありません。

住職見習い期間を長く過ごすよりは、さつさと住職になって責任を持った方が良くと思ったのです。私は院主(隠居)として、困ったときには脇から指導します。留守番も引き受けますので、新住職には勉強のためにどんどん出かけてもらいたいと思います。

ついでに、住職家族の居室が狭くて、娘が戻っても部屋がないなどの問題点がでてきました。そこで役員会議を開いて相談したら、皆さんが「住居は何とかしないといけないが、住職のそんな早い交代は認められない。せめて65歳までは頑張ってもらわないと困る」と一様に仰るのです。

そもそも私は、60歳定年を考えてきました。この秋で62歳になります。65歳まで住職を続けるとすれば、娘が戻ってからの引き継ぎの期間は2年間となります。ひとりの総代さんから「良恵さんは30歳になるとはいえ、即住職では重責過ぎてかわいそうだ」との言葉をいただきました。そこまで考えてくださるのかと、父親としてとてもありがたく感じました。皆様のご意見に従う方向で考え直そうかと思う昨今です。

お稚児さんに出仕した幼いころの奈央さん



ゴルフ大会に参加したのがきっかけだった。以来練習に励み、1年後にはヨネックスジュニアゴルフ選手権低学年の部で優勝し、プロゴルファー石川遼さんからトロフィーを受け取った。6年生の新潟県ジュニアゴルフ選手権では、姉妹で1位と2位になるなど、中学生になってからも幾多の大会で入勝している。賞状やトロフィーは自宅ではなく、「人目に付く私の家に置いているわ」と、祖母のミスさんも嬉しそうだ。

今は、学校帰りにゴルフ場で奉仕作業をさせてもらい、ゴルファーのマナーを学び、練習をしてから自宅に帰る毎日を過ごす。姉の菜奈さんは、寺泊にあるヨネックスカントリークラブでキャディーをしながらプロを目指している。ミスさんは、先祖の供養と家内の安全を願い、10年前に始めた『法華経』の写経をして、孫たちを見守る日々である。

檀徒の中から姉妹プロゴルファーが誕生する日が来るかもしれない。(鎌田 記)

河村奈央さんは松山の生まれで、河村辰夫さんの次女である。姉の菜奈さんと二人姉妹で、この春中学3年生になる。活発な性格で、旧巻町の保育園児の代表として、巻文化会館で開かれた交通安全町民大会で、安全宣言の標語を大勢の前で読み上げた。また、宝石会社のテレビCMに、数年間出演したこともある。松山地区農家組合のネズミ駆除普請作業にも率先して参加するなど、地元で奈央さんを知らない人はいない。

奈央さんは、幼い頃からおばあちゃん子だ。お寺の行事には祖母のミスさんと共にお参りし、「ご判様」には稚児として出仕した。ミスさんのお題目と太鼓のリズムを、見よう見真似で覚え、今ではすっかり板に付いた。昨年亡くなった祖父信雄さんの葬式では、枕経から湯灌、お通夜・葬儀・四十九日忌まで、全て団扇太鼓でお題目を唱えて供養した。ことに納棺までの間は、おじいちゃんが寂しくないようにと枕を並べて寝た。その後、松山講中の一週間のお経練習に、欠かさず参加した。今度は、おじいちゃんの供養も兼ねて、お寺の身延山参拝旅行に参加し、



七面山にも登ってみたいという。奈央さんは、姉の菜奈さんとともに、ゴルファーでもある。小学2年生の時、松山地区住民ゴ

## 信心 元氣な女子中学生

西蒲区松山 河村奈央さん(14歳)

# 仏縁を広く結んで、誰もが心を開ける妙光寺に

妙光寺の檀徒の中心は、25人の世話人さんです。その中から互選で選ばれる3人の総代さんは、いわばお寺の運営の中核を担う方たちです。総代さんに、これまでとこれからの妙光寺について、うかがいました。

## 総代さんに聞く

**Q** 昨年の開創七百年記念身延山大法要は、いかがでしたか？

**内藤** 無事に終わって、本当にホッとしました。天候にも恵まれて、事故もなく、大成功でした。やはり御前様の人徳ということでしょうね。

**大滝** 初めて構想を聞いた時「これはいい」と思いました。何よりインパクトがあります。でも、七百人を集めるのは無理だと思いましたね。

**内藤** 私も、やるのはいいことだけど、四百人くらいじゃないかなあ、と思っていました。

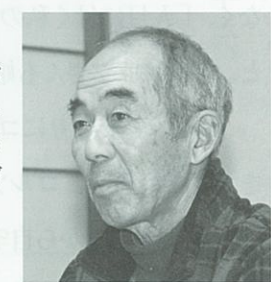
**高橋** 御前様は、五百人に届かなかったらやめると言うんだから、大変なプレッシャーがありました。当初参加申し



**内藤昭栄さん** (71歳)  
平成16年4月から世話人となり、平成24年6月から総代になった。もうすぐ2年になるのかと、少々驚いている。元公務員。



**高橋英一さん** (64歳)  
本堂建て替え前の平成13年に世話人となり、平成24年6月から総代に。農業のかたわら、タクシー会社に勤務される。



**大滝剛さん** (62歳)  
平成12年、世話人となると同時に総代になった。専業農家で、メロン、スイカ、ネギ等々、野菜づくりをしている。

込みも、三百五十人くらいでピタッと止まってしまう……。  
**大滝** 夏になってメ切が近づいて、目標に達した時はホッとしました。  
**高橋** 七百年身延山大法要は、とてもやりがいがありました。あの緊張感と達成感を、どんな形で持続していけるか。次の世代をどう育てていくか。これが、これからの課題です。

**Q** 妙光寺の現状については、どんな風に感じておられますか？

**高橋** 妙光寺のようなお寺は、とても珍しいんですよ。お寺の総代さんたちが集まる会議で聞いてみると、ここほとんどかりした会計報告はされていません。妙光寺はとても先進的なんです。財務が

**Q** 御前様の発想に、大変じゃないですか？

**高橋** とにかく、御前様はアイデアマンです。新しい構想がどんどん出てきて、確かになかなか大変ですよ。(笑)

**内藤** 私は大変だとは考えたことはありません。どんな発想が出てくるのはいいと思います。私たちは、出てきたことに対して、いいとか悪いとか言えはいいわけですから、ある意味では楽かもしれません。飛んでくるボールを受け止め

たり、跳ね返したりしてあげたいんですから。

**大滝** 逆の立場になってアイデアを出せなんて言われたら、とても無理ですから、受け止める方が楽でしょうね。ただ、うまく受け止めなければ、という責任は感じています。

**Q** これからの妙光寺を、どんなお寺にしていきたいと思えますか？

**内藤** こんな風にうまくいっているお寺は、少ないと思います。今のいい状態を、これから何十年、何百年と続ける努力をしていかないとね。

**高橋** (聴き手に) 私は、妙光寺の中に入っている人間ですが、あなたは、「お寺」というとどんなイメージを持っていますか？

**聴き手** 法事やお葬式の時に行くところ……でしょうか。  
**高橋** そうですよ。でも、これからのお寺は、それでいいのだからと思うんです。もっと若い人が共感するものを、提案していくべきです。たとえば、今の日本は毎年3万人も自殺する人がいます。そういう人たちは、1人でも2人でも救えるような寺になってもらいたいです。

**内藤** 悩みがあれば、誰もが話に来れるような寺ですね。ここにきて、自分

の考えをオープンに語れる場所、法事以外の時も話を聞いてくれる開放的な場所、そういう寺ならこれからも栄えていくでしょう。

**大滝** 妙光寺は、他のお寺にはないイベントをたくさんやっています。ご判様や送り盆、そして文化的なイベント……その中で、若い人たちの悩みにこたえることもしていると思っています。

**高橋** いろいろな角度から、いろいろな意見を出してもらうことが、大切ですね。一月には25人の世話人を3つのグループに分けて、今後の寺の方向について話し合いました。たくさん意見が出ましたよ。

**内藤** こうやって、皆で話し合っている寺も、珍しいでしょうね。  
**高橋** 妙光寺には安穩廟があって、昔からの檀徒の他に安穩会員さんがいます。従来はともすれば、これは檀徒の行事、これは安穩の行事、と分かれる傾向がありました。でも安穩廟も、今年で25周年です。私たちは皆、縁あって妙光寺でよりそうのだから、皆が参加できるイベントにしたいですね。

**大滝** 安穩会員から檀徒になる方も多いいのですが、今は安穩出身の人で世話人になっている方は1人だけです。もっと増やしていきたいですね。  
**内藤** 檀徒の人も安穩の人も同じお寺に縁を結んでいるのですから、垣根を取り除いていくことが、お寺の発展につ

**Q** 七百年目以降の妙光寺の課題は、なんですか？

**高橋** 2つの大きなことがあります。まず、3月の参道植栽と記念碑の除幕式です。それから新住職への引き継ぎは、2年くらい時間がかかります。形のあるものと形のないものを共に引き継ぐわけですから、難しいこともあると思います。うまくやっていきたいと思っています。

**Q** 数年後に新住職となる良恵さんに、ひとことお願いします。

**内藤** 今の住職の跡を継ぐんですから、大変だろうとは思いますが。でもあ

非常にオープンなので、皆に状況がよくわかりますし、無駄遣いもできません。  
**大滝** 以前から会計報告はしていたんです。本堂建て替え後の平成14年に、檀家組織の「護持会」が現在の「檀信徒会」になったときから、今のよう詳細な会計報告をして、会計監査もやるようになりました。

**高橋** 法律上も今の規模では、ここまで詳しい会計報告をする必要はないんです。でも、妙光寺はしっかりやっています。  
**大滝** これは、とても大切なことです。話し合いの基盤がしっかりしているから、私たち役員も御前様に意見が言えるんです。そうでないと、御前様の言うことをハイハイと聞いているだけになってしまいます。

まり気にせずに、やってもらいたい。そして、自分の人生を大切に、お坊さんになって良かったと思ってほしいですね。

**高橋** 今の御前様も、40年経って完成されたんですから、40年後を目指してもらえればいいんです。しかも宗教学者妙光寺の代表になるのですから、ひとりやるわけではありません。私たち皆で、妙光寺をやっていくんです。私たちも良恵さんに正確なボールを投げ返していかなければ、と思っています。ただ私たちが3人も総代ですが、「責任総代」は大滝さんなんです。ま

ず大滝さんにはしっかりお願いしたいですね。(笑)  
**内藤** 寺の存亡に関わる重大な役目ですよ、これは。(笑)

**大滝** もちろん、新住職としっかり相談しながら、皆と協力してやっていきます。(きつぱり)

私自身も微力を尽くしたいと思っています。今年から重ねられる妙光寺の新しい伝統が、楽しみです。どうもありがとうございました。(聴いた人 編集部・新倉理恵子)

一人ひとり厄を祓います。



厄除けの後、広間で甘酒を頂きながらホッと一息。

## 厄除け祈願祭 (2月1日、2日)

今年は2日間で80名の申込みがありました。



## NHKテレビ 『あさいち』で放送 (1月27日)



NHKテレビ「あさいち」放送より

この日のテーマは、『オンナの選択-夫の墓に入りたくない!?』  
といささか衝撃的でしたが、井上治代さん(東洋大教授)を専門家ゲストに、現代のお墓が抱える問題点を女性の視点から取り上げました。

妙光寺は、25年前全国に先駆けて「承継者不要の墓」を開設した寺として、5分間にわたり紹介されました。視聴率が高く大反響だったそうです。妙光寺も放送中から問合せ電話が相次ぎ、ホームページへのアクセスが1週間で1,900件もありました。

## お経の会

次世代が集まって、お経練習を2つの地区で行いました。



松山地区



角田浜地区

# 寺のうごき冬

## しめなわ 注連縄作り

妙光寺の注連縄は、毎年檀徒の笹川耕一さん、正行さん親子が作ってくださいます。

耕一さんは今年90歳。縄をなう手はまだまだ現役!



## 除夜の鐘

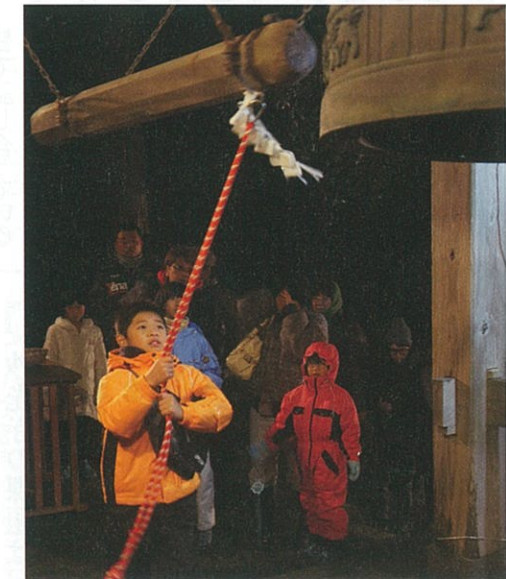
大勢の人が鐘を撞き、煩惱を祓いました。



福引もあります!



甘酒とこんにゃくも振る舞われ、これを目当てに来る人も…?



## 元旦・お茶会

新しい年を祝い、初釜のお茶会。年始に来られた方々100人近くが、気楽に一服いただきました。



お焚きあげの火であぶったスルメを食べると、一年間健康に暮らせるとか。



人事異動

新任 4月1日から、新しい役員さんが入ります。佐藤勝啓上人、24歳です。新潟県村上市の「身延浄行会結社」という小規模なお寺の長男です。



た。真面目な好青年です。宜しくお願いたします。

退任 昨年4月から1年間、研修生としてお預かりしてきた千葉県の戸田善齊君が3月末で退任します。4月からは実家のお寺に戻り、来春に「身延山信行道場」での修行に入ります。皆様には大変可愛がっていただきありがとうございました。

正職員

境内管理を担当している松本啓一郎さん(39歳)は、福島原発から10キロの福島県浪江町で、父親が経営する造園会社で働いていました。震災以来新潟に避難し、造園技能士等数々の資格を持つので、平成23年5月社労士に紹介をいただきました。以来臨時職員として妙光寺に勤務してきました。

この度、放射能汚染で自宅に戻れないことが確定し、昨夏に子供も生まれたので新潟での永住を決意されました。そこで、雇用を正職員としました。いつもきれいな境内は松本さんの力です。更に今後は外注してきた庭木の剪定、墓地の雑草管理も担当します。

携帯メールで情報発信!

携帯やスマートフォンに、妙光寺の最新情報をお知らせします

「妙の光」は3か月に一度の発行で、お届けの1か月前に原稿を書いています。そのために先日NHKテレビ放

送等、急に決まったことのお知らせができません。また同居でないため、若い方に情報が届かないとの声もありま

す。そこで、若い方を含めて個人宛に、お使いの携帯電話やスマートフォン、インターネットメールで直接お知らせする方法を検討中です。ぜひ、皆様や若い世代の方のアドレスを妙光寺宛お知らせください。



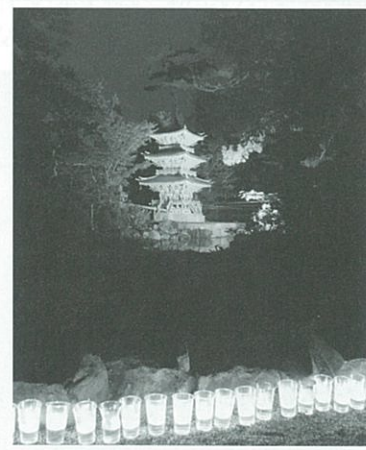
終活ノートのお届け

「妙光寺版終活ノート」は編集作業を継続中です。お届けは、夏前になりそうです。今少しお待ちください。



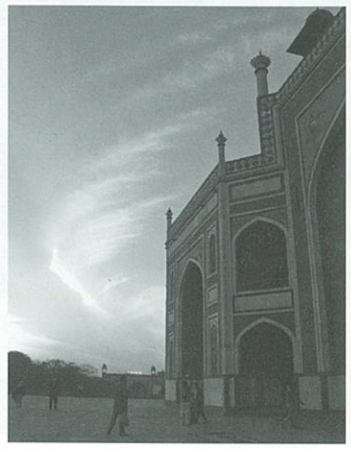
送り盆 8月30日(土)

今年の「送り盆」第25回フェスティバル「安穩」は、8月30日(土)です。ご予約ください。



インド仏跡参拝ツアー 計画中

お釈迦様の足跡を巡るインド旅行のご希望があります。来年2月か3月に、15名程集まれば実施可能です。お問い合わせください。



話 法 上 誌 小川英爾



わがこの土は安穩にして 天人常に充滿せり

『如来寿量品第十六』

四季の境内

春の訪れとともに、次々と咲く花々で境内が華やぎます。墓地のカタクリ、雪割草はじめ数多の山野草から始まり、梅、幾種類もの桜、コブシ、カイドウ等々と続きます。また角田山からの雪解け水が音を立てて沢を流れ、水面が春の光にキラキラ輝く様子も心を浮き立たせます。水がまだ冷たくて動きの鈍い鯉を、大きなサギが池のふちでジッと狙っています。鯉を食べる迷惑な鳥ですが、鳥も生きるための自然な行動です。

やがて新緑の季節を迎えますが、みずみずしくて柔らかい葉はほんの数日で、すぐに若葉に変わります。そしてあふれる緑の夏から紅葉と落ち葉の秋へと移り、また冬の静けさが戻って来るのです。

境内は移りゆく四季を通じて、訪れる人たちにとって、日常の喧騒と時には悲しみを癒す安らぎの場です。漂う香のかおりと本堂から聞こえてくるお経の声、澄んだ鐘の音、力強い太鼓の響き。自然だけでなく、仏様の世界が、そこにあるからです。

仏様の住む世界

その仏様の世界を表したのが表題の一文です。「私(仏)の住む世界は安らかで穏やかにして、神々と人間が充ち満ちている。」という意味です。さらに「そこで神々も人も色々な遊び楽しむことができ、広い林の中にはきれいな建物が立ち並び、宝物の山や、樹木は咲き乱れる花や果実で彩られている。天空では神々が楽器を奏で、私や悟りを求

めて修行する者たちに曼荼羅の花びら散らせ、甘い雨を降らせている。」と続きます。

これが一般に言う極楽の世界で、仏様の住まれる浄らかな土地、浄土です。安穩廟の名はこのお経文に依るもので、同時に境内が少しでも浄土を身近に想像できる場であって欲しいと考えました。

この世に浄土を

仮に境内が仏様の世界であっても、一歩外に出ればそこは様々な悩みや欲望、苦しみに満ちた現実世界です。そんな私たちに向けて、お釈迦様は「あなた達はこの世界が悩み苦しみの炎に焼かれ、沢山の心配事や恐怖で満ち溢れていると思込んでいる。私は、はるか昔から今も未来までも、心安らかな浄土をいつも用意している。疑いの心を捨て、正しい信仰心を持ち、欲望や怠慢、不幸な道から離れた修行の世界に目覚めなさい。」と説かれたのです。

以前ある方からこんな感想文を戴きました。「宗教とは無縁と思っていた私が、安穩廟と出会ってから、その考えが少し変わってきたような気がする。墓は死後のものと思っていたが、自然に恵まれた静かな環境の下に、近代的な墳墓を幾度となく訪れ、そして本堂に礼拝することで、私は人生への達成感、安心感、自己の証を肌で感じる事ができるのである。これも妙光寺(宗教)とのご縁の賜物と感謝している。」

仏様の安らぎの世界は奥が深いのですが、決して死後のことでも、自分に無縁な話でもないのです。



## 「味噌としょうゆ」

妙光寺の周辺では、たいした雪も降らないまま、立春を迎えました。地元角田浜では昔から妙光寺を「山んてら」、集落内の願正寺を「村んてら」と、なんとも可愛らしい通称で呼んでいます。雪に包まれた「山んてら」は、シーンと静かで趣があります。雪に煙っている境内は昔話の山寺そのもので、その雰囲気はこの時期の楽しみのひとつでもあり、束の間の休息のようにも感じます。でも今年は、新年から穏やかなお天気が続いて、早くも気ぜわしく感じているこの頃です。

先日総代さん奥さんのサッチャンと、その友人シンちゃん、そして私の3人で、味噌を仕込みました。塩以外は米も大豆も、サッチャンシンちゃん2人の作物という純国産の贅沢な味噌が出来ました。「明日は午後から集合」と言われたので出かけたから、その日からまる2日間、その合間に五目おこわ、おでんを作り、お餅までついてしまうというスーパーウーマンぶりで、3日目の昼に作業は終わりました。普通の味噌はこれから秋まで熟成させます。今年は白みそも作りました。白みそは50日ほどで食べられるようになるそうです。お寺の下洗い場には、およそ50キロの味噌が眠っています。たくさん出来たので、夏の「送り盆」で、味見をしたい方にお分けしたいと思っています。

こんなときには、自分の食べ物をあたりまえに作

るといふ農家の人の底力を感じます。そして、これぞ日本！という気持ちになるのです。

朝、目覚めると今日の生活の流れをざっと考えるのですが、その中心は食事のことです。冷蔵庫にある食材を思い出して「これとこれ、昼ごはんは麺、夕食は……」なんて。これはもう主婦の習性ですね。料理は嫌いではないけれど、毎日のこととなると、面倒になることもよくあります。「あー、もうなんで毎日毎日食べなくちゃならないのよお」と思いながら立つ台所でやる気にさせてくれるものは、間違いなく新鮮な野菜です。みずみずしい大根やきゅうりは切って味噌をつけるだけ、菜っ葉はゆでて醤油をかけるだけ、あっという間にできあがりです。

味噌作りが終わってから、ふと私の心をつかんでいるのは醤油のことです。味噌と醤油は誰もが毎日食べているのに醤油をつくったという話は聞かないなと思ひながら、今はいろいろと調べているところですよ。昔は醤油も自分でつくっていたのでしょうか？

もうすぐ春がやってきます、暖かくなれば身体も楽だし、気分も良くなるに違いありません。芽吹いた山菜、特にウドなんか……味噌を添えるだけで、上等な今晚の酒の肴！簡単がなによりですわあー！！



### 質問

『安穩廟』について、あらためて教えてください。



### 必ずしも 跡継ぎがいなくてもいい墓

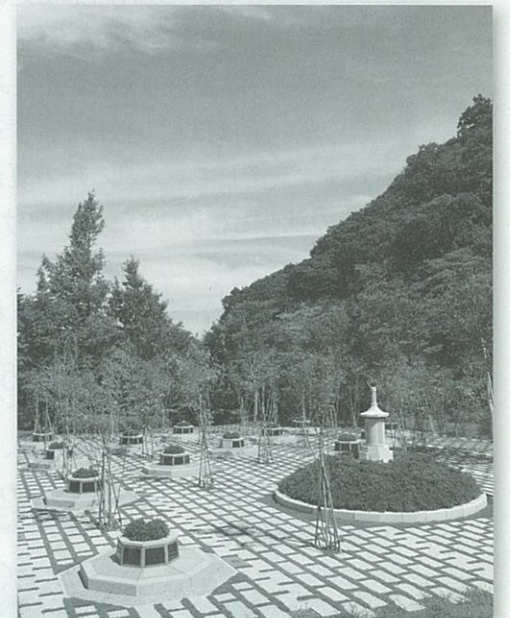
核家族化や少子化で家の跡継ぎ、墓の跡継ぎがいけない家族が増えています。以前は本家の墓に入ったりしたのですが、最近は親戚付き合いも薄く、その上本家ですら跡継ぎ不在の例もあります。

こうした悩みに応えようと「跡継ぎがいなくなったら一定期間後に個別の墓から合祀に移して寺が永代供養する墓」として、『安穩廟』を平成元年に開設しました。跡継ぎがいることで成り立ってきたのが、従来の墓です。そのため当時は子どもがいけない方や、娘だけの方、離婚後のとくに女性等は墓地を求めることすらできませんでした。

### その仕組み

全体の美観を最優先にして、個別に仕切られた集合墓にすることで建設費

を抑え、その収益を基金運用して管理と供養を行います。申込みの際は後継者がいなくても構わないので、いわゆる檀家になることを条件にしています。納得して希望すれば、家ではなく個人を基本にした檀徒になれます。それまでは「安穩会員」という会員制であることが、大きな特徴です。基金の運用を含めた妙光寺の全ての運営費は、役員会議で審議します。その一部を使って従来の檀信徒を含めた交流の場など、妙光寺のご縁の輪を広げています。昨年の開創700年大法要にも、会員さんが多数参加しました。



### 残り70区画

『安穩廟』は宗教活動であり、そのため広告宣伝は一切しないのが行政との約束です。それでも申込みが途切れません。それはこうした先駆的な運営方法が評価され、開設当初からしばしばNHKはじめマスコミで取りあげられてきたことと、皆さんのご紹介など口コミによります。

昨夏増設した104区画の残りが約70区画で、最終受付の予定です。敷地も限界に近く、檀徒になって葬儀の依頼をされる方が増えて対応に追われているためです。最近は跡継ぎがいる方の申込みも増え、時代の変化を痛感します。

近年は、従来の檀徒さんからも「跡継ぎがいけない」という相談が増えています。その受け皿としての『檀徒の安穩廟』も、年内に完成予定です。(小川)